

AMJ タングステンスクラップの取扱順調

25年度、台湾企業と連携拡大も視野

には台湾の協力企業との連携拡大を視野に入れている。

AMJは台湾の出資先であるリエンヨウ・メタルズと連携し、工具などのタングステンスクラップからタングステンやコバルトを取り出すなど、再資源化に取り組んでいる。そのリエンヨウ・メタルズは昨年12月に新たに導入した溶媒抽出設備の試験運転を行っており、今年は硫酸コバルト、コバルト粉末の製造に着手することを予定している。将来的には、AMJは電池のリサイクル事業と併せて同設備を活用した事業の検討を進めている。

堅調となるリサイクル分野の事業環境について、福田社長は取材に応じ、「脱炭素に向けてスクラップに注目が集まっている。加えて、一部レアメタル商品においては児童労働はじめ人権問題に対する懸念などもあり、よりスクラップを活用する動きが見られる」と語った。一方でスクラップの発生が世界的に減っている中、集荷体

レアメタル専門商社アドバンストマテリアルジャパン（AMJ、本社・東京都千代田区、社長・福田聡氏）の2024年4～12月期決算は前年同期比では一部商品の相場と取扱数量の落ち込みで若干の減収減益となっているが、通期決算では前期と同水準となる見込み。その中、タングステンスクラップの取扱いは順調で、次年度

制の強化も必要であり、国内外の集荷業者とも連携してスクラップの有効活用に取り組みでいく方針だ。

